

2 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要

○2009/10年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、世界的に増産となった前年度より収穫面積が減少することなどから、世界的な生産量の減少が見込まれている。

需要面では、堅調な食料用需要の増加が、飼料用需要の減少を上回り、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、2年連続して生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も増加し、世界の小麦需給は緩和すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、豊作であった前年度と比較して、市場価格の低下や経済の減退による影響から収穫面積が減少すること等から、インド、中国、オーストラリアでは増産となるものの、EU、米国、ロシア、カナダ等で減産となり、世界全体では前年度より18.6百万トン減少（▲2.7%）し、663.7百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体では、4.4百万トン上方修正されており、国別には、EU、ロシア等で上方修正された。

【消費量】

消費量は、食料用需要を中心にインド、ロシア等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より10.3百万トン増加（1.6%）し、646.1万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体では0.9百万トン上方修正されており、国別には、EUで上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、15.8百万トン減少（▲11.4%）し、123.0百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではオーストラリア等で増加するものの、ウクライナ、EU、ロシア、アルゼンチン、米国等で輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、インドネシア、日本で輸入量の増加、モロッコ、エジプト、EU、ブラジル等で輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.4百万トン下方修正されており、国別には、輸出国では、アルゼンチンで下方修正され、輸入国では、アルジェリアで上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、2年連続で生産量が消費量を上回ることから、中国、インド等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より17.6百万トン増加（10.4%）し、186.6万トンとなる見込みであり、期末在庫率も28.9%と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で、3.1百万トン上方修正されており、国別には、EU、ロシア等で上方修正、カナダで下方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	611.0	682.3	663.7	4.4	▲ 2.7
EU-27	120.4	151.3	138.5	2.2	▲ 8.5
中国	109.3	112.5	114.5	-	1.8
インド	75.8	78.6	80.6	-	2.5
ロシア	49.4	63.7	56.5	1.0	▲ 11.3
米国	55.8	68.0	59.4	-	▲ 12.6
カナダ	20.1	28.6	22.5	-	▲ 21.4
オーストラリア	13.8	21.5	23.0	-	7.0
消費量	616.1	635.8	646.1	0.9	1.6
うち飼料用	96.1	113.2	109.7	0.5	▲ 3.1
EU-27	116.5	127.5	127.0	0.5	▲ 0.4
中国	106.0	102.5	101.0	-	▲ 1.5
インド	76.3	70.8	76.9	-	8.6
ロシア	37.7	38.9	39.7	-	2.1
米国	28.6	34.0	34.5	-	1.5
パキスタン	22.4	22.8	23.3	-	2.2
トルコ	16.8	16.9	17.3	-	2.4
貿易量	117.5	138.8	123.0	▲ 0.4	▲ 11.4
(輸出)					
米国	34.4	27.6	25.9	-	▲ 6.4
EU-27	12.3	24.5	20.0	-	▲ 18.4
カナダ	16.4	18.5	17.0	-	▲ 8.1
ロシア	12.6	18.4	16.5	-	▲ 10.3
オーストラリア	7.5	14.0	15.5	-	10.7
ウクライナ	1.2	13.0	8.0	-	▲ 38.7
アルゼンチン	11.2	5.7	2.5	▲ 0.5	▲ 56.1
(輸入)					
エジプト	7.7	9.9	8.3	-	▲ 16.2
EU-27	6.9	7.3	6.5	-	▲ 11.0
ブラジル	6.7	6.0	5.5	-	▲ 8.3
インドネシア	5.5	5.4	5.5	-	1.4
日本	5.7	5.2	5.3	-	2.8
アルジェリア	5.9	6.1	5.7	0.3	▲ 6.6
モロッコ	4.2	4.0	1.8	-	▲ 55.0
期末在庫量	122.6	169.0	186.6	3.1	10.4
中国	39.0	48.7	61.0	-	25.2
EU-27	12.6	19.2	17.2	1.8	▲ 10.5
米国	8.3	18.2	20.2	-	11.3
インド	5.8	13.4	16.9	-	26.0
ロシア	1.8	8.4	8.9	1.0	5.9
カナダ	4.6	6.6	5.4	▲ 0.5	▲ 18.3
オーストラリア	4.7	5.5	6.0	-	9.5
期末在庫率	19.9%	26.6%	28.9%	0.4	2.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、豊作であった前年度より収穫面積、単収とも減少するため、8.6百万トン減少（▲12.6%）し、59.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、食料用需要の増加が飼料用需要の減少を上回ると見込まれることから前年度より0.5百万トン増加（1.5%）し、34.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少等から1.7百万トン減少（▲6.4%）し、25.9百万トンとなる見込みである。

この結果、前年度大幅に増加した期末在庫量は、さらに2.0百万トン増加（11.3%）し、20.2百万トンとなり、期末在庫率は33.5%（4.0ポイント増）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦の収穫は8月に終了した。作柄については、オクラホマ州、テキサス州等で生育期の1月から3月の干ばつの影響から、冬小麦の作柄に影響が出ているが、その他の地域については、良好である。また、収穫面積は、2008/09年度の16.0百万ヘクタールより1.9百万ヘクタール減少（▲12%）し、14.1百万ヘクタールとなっている。

2009/10年度の春小麦については、雨がちな天候からノースダコタ州等で作付けが遅れたことから、9月20日現在で収穫はようやく終盤を迎えている。収穫率は85%と前年度より遅れている。しかしながら、作柄は優良～良までの計が74%と、前年度最終（55%）を上回っており、良好である。

2010/11年度の冬小麦の作付けがテキサス州やネブラスカ州で開始された。作付けの進捗率は、主要生産州で24%と平年よりは1ポイント遅れているが前年よりは4ポイント進んでいる。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース63.3%）
世界の生産量シェア 4位（2009/10年度 9.0%）
輸出量シェア 1位（2009/10年度 21.0%）

表－2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.8	68.0	59.4	-	▲12.6
消費量	28.6	34.0	34.5	-	1.5
うち飼料用	0.4	6.7	6.4	-	▲4.5
輸出量	34.4	27.6	25.9	-	▲6.4
輸入量	3.1	3.5	3.0	-	▲13.6
期末在庫量	8.3	18.2	20.2	-	11.3
期末在庫率	13.2%	29.4%	33.5%	-	4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	20.64	22.54	20.41	-	▲9.4
単収(t/ha)	2.70	3.02	2.91	-	▲3.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米國小麦の生育進捗及び作柄

〔生育進捗状況（2009/10年度春小麦）（2010/11年度冬小麦）
（9月20日現在）〕

春小麦(主要6州)

収穫率 85%(平年差：▲11 p、前年差：▲11 p)

冬小麦(主要18州)

作付率 24%(平年差：▲1 p、前年差：+4 p)

〔作柄（2009/10年度春小麦：主要6州）〕

（9月6日現在）

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
春小麦	2009/10	16	58	19	5	2
(2009/9/06)	前年度同時期	-	-	-	-	-
	前年度最終	14	41	28	12	5

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」

注1：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

注2：9月6日の公表値に前年度同時期のデータは含まれていない。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、収穫面積は前年より減少し、豊作であった前年度と比べて産地の乾燥等により単収が減少することから、6.1百万トン減少（▲21.4%）し、22.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少から前年度より1.5百万トン減少（▲17.4%）し、7.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.5百万トン減少（▲8.1%）し、17.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、生産量が減少するため、前年度より1.2百万トン減少（▲18.3%）し、5.4百万トンとなり、期末在庫率は、22.3%（2.0ポイント減）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の輸出量が0.5百万トン上方修正され、消費量がわずかに下方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.5百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量は0.5百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の収穫が開始された。生育遅れによる収穫前の早霜が懸念されている。

ウ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、前年度に引き続いて増産となり、1.5百万トン増加（7.0%）し、23.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加等から前年度より0.3百万トン増加（3.7%）し、7.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加から1.5百万トン増加（10.7%）し、15.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン増加（9.6%）し、6.0百万トンと積み増しされ、期末在庫率は26.8%（0.3ポイント増）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の生育は、8月まで降雨の少なかったクィーンズランド州、ニューサウスウェールズ州で9月上旬に降雨があり乾燥による生育への影響が緩和された。他の地域ではおおむね順調である。エルニーニョの影響の懸念もあり、天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 2位（2008年数量ベース20.4%）
世界の生産量シェア 8位（2009/10年度 3.4%）
輸出量シェア 3位（2009/10年度 13.8%）

表-3 カナダの小麦需給（市場年度：8月～翌年7月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	20.1	28.6	22.5 (22.5)	-	▲21.4	
消費量	6.4	8.5	7.0 (7.3)	-	▲17.4	
うち飼料用	2.1	4.0	2.5 (2.7)	-	▲38.0	
輸出量	16.4	18.5	17.0 (16.3)	-	▲8.1	
輸入量	0.4	0.4	0.3 (0.0)	-	▲14.3	
期末在庫量	4.6	6.6	5.4 (5.4)	▲0.5	▲18.3	
期末在庫率	20.0%	24.3%	22.3% (22.6%)	▲2.1	▲2.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.64	10.03	9.80 (9.56)	0.20	▲2.3	
単収(t/ha)	2.32	2.85	2.30 (2.35)	▲0.04	▲19.3	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (7 August 2009)」

我が国の輸入先国シェア 3位（2008年数量ベース16.1%）
世界の生産量シェア 7位（2009/10年度 3.5%）
輸出量シェア 5位（2009/10年度 12.6%）

表-4 オーストラリアの小麦需給（市場年度：10月～翌年9月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	13.8	21.5	23.0 (22.7)	-	7.0	
消費量	6.2	6.8	7.1 (7.0)	-	3.7	
うち飼料用	3.5	3.8	4.0 (3.9)	-	6.7	
輸出量	7.5	14.0	15.5 (15.5)	-	10.7	
輸入量	0.1	0.1	0.1 (...)	-	▲38.5	
期末在庫量	4.7	5.5	6.0 (...)	-	9.6	
期末在庫率	34.3%	26.5%	26.8% (...)	-	0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	12.70	13.50	13.50 (13.79)	-	0.0	
単収(t/ha)	1.09	1.59	1.70 (1.65)	-	6.9	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
ABARE 「Australian crop report (15 September 2009)」(※ABAREは作付面積)

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、過去最高の生産量であった前年度と比較して、東欧やスペインの乾燥により、単収が低下することや、油糧種子への転換等から収穫面積が減少すると見られ、前年度より12.8百万トン減少（▲8.5%）し、138.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン減（▲0.4%）の127.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少等から4.5百万トン減少（▲18.4%）し、20.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は2.0百万トン減少（▲10.5%）し、17.2百万トンとなり、期末在庫率も11.7%（0.9ポイント減）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、収穫面積が下方修正されたものの単収が上方修正されたことにより生産量が2.2百万トン上方修正され、食料用および工業用需要の上方修正により消費量が0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量は1.8百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の収穫が終盤を迎えている。東欧では生育期の乾燥により減産となるものの、主産国のフランスでは好天に恵まれ、単収が向上し生産量が増加する見込みである。

【貿易情報】

穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

オ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、単収及び収穫面積がわずかに増加することから、前年度より2.0百万トン増加（1.8%）し、114.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少等から前年度より1.5百万トン減少（▲1.5%）し、101.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.8百万トン増加（108.3%）し、1.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は12.3百万トン増加（25.2%）し61.0百万トンとなり、期末在庫率も59.5%（12.3ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦の収穫については、6月におおむね終了した。

2010/11年度の小麦の作付けは9月から10月にかけて開始される。

【貿易情報】

2007年12月に輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課していたが、輸出税については2009年7月1日に撤廃された。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

世界の生産量シェア1位（2009/10年度 20.9%）
輸出量シェア2位（2009/10年度 16.3%）

表－5 EU-27の小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.4	151.3	138.5 (138.5)	2.2	▲ 8.5
消費量	116.5	127.5	127.0 (125.7)	0.5	▲ 0.4
うち飼料用	52.4	61.0	59.0 (53.5)	-	▲ 3.3
輸 出 量	12.3	24.5	20.0 (19.0)	-	▲ 18.4
輸 入 量	6.9	7.3	6.5 (6.0)	-	▲ 11.0
期末在庫量	12.6	19.2	17.2 (16.1)	1.8	▲ 10.5
期末在庫率	9.8%	12.6%	11.7% (0.1)	1.2	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.77	26.69	25.60 (…)	▲ 0.27	▲ 4.1
単収(t/ha)	4.86	5.67	5.41 (…)	0.14	▲ 4.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (27 August 2009)」

(世界の生産量シェア2位（2009/10年度 17.3%）)

表－6 中国の小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.3	112.5	114.5 (114.0)	-	1.8
消費量	106.0	102.5	101.0 (…)	-	▲ 1.5
うち飼料用	8.0	5.0	4.0 (…)	-	▲ 20.0
輸 出 量	2.8	0.7	1.5 (0.2)	-	108.3
輸 入 量	0.1	0.5	0.3 (0.2)	-	▲ 37.5
期末在庫量	39.0	48.7	61.0 (…)	-	25.2
期末在庫率	35.8%	47.2%	59.5% (…)	-	12.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.72	24.00	24.30 (…)	-	1.3
単収(t/ha)	4.61	4.69	4.71 (…)	-	0.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (27 August 2009)」

カ インド

【需給状況】

インドの生産量は、過去最高の生産量であった前年度より単収が増加したため、2.0百万トン増加（2.5%）し、過去最高の80.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、モンスーン到来の遅れによる米の減産見通しから小麦の需要が増加すると見込まれるため前年度より6.1百万トン増加（8.6%）し、76.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の、0.2百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度と同じ0.0トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、3.5百万トン増加（26.0%）し、16.9百万トンとなり、期末在庫率も22.0%（3.0ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の収穫は、5月から6月にかけて終了した。2010/11年度の小麦の作付けは10月に開始されるが、作付期の天候に注視が必要である。

【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されたが、2008年9月に種子用の小麦に限り輸出禁止が解除された。なお、2009年7月3日に輸出禁止が一旦条件付きで解除されたが、米の減産見通しから7月13日に加工品を除き輸出が再度禁止された。

キ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、豊作であった前年度と比較して収穫面積は増加するものの一部地域の干ばつ等により単収が減少することから、前年度より7.2百万トン減少（▲11.3%）し、56.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.8百万トン増加（2.1%）し、39.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.9百万トン（▲10.3%）減少し、16.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン増加（5.9%）し、8.9百万トンとなり、期末在庫率も15.9%（1.2ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、収穫面積の上方修正から生産量が1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量は、1.0百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦は、収穫期の終盤を迎えている。ロシア農業省の発表では、9月23日時点の小麦の収穫量は、約51.0百万トンで豊作であった前年同時期の86%である。シベリア地域では作柄が良好であったが、南ウラル、沿ボルガ地方の一部地域で干ばつの影響等から、豊作であった前年度より単収が減少する見込みである。2010/11年度の冬小麦の作付けが開始された。

【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア3位（2009/10年度 12.1%））

表-7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	75.8	78.6	80.6 (80.6)	-	2.5
消費量	76.4	70.8	76.9 (…)	-	8.6
うち飼料用	0.2	0.1	0.1 (…)	-	0.0
輸 出 量	0.1	0.2	0.2 (1.0)	-	0.0
輸 入 量	1.9	0.0	0.0 (T)	-	▲ 100.0
期末在庫量	5.8	13.4	16.9 (…)	-	26.0
期末在庫率	7.6%	18.9%	22.0% (…)	-	3.0

(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.00	28.15	27.80 (…)	-	▲ 1.2
単収(t/ha)	2.71	2.79	2.90 (…)	-	3.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (27 August 2009)」

（世界の生産量シェア5位（2009/10年度 8.5%） 輸出量シェア4位（2009/10年度 13.4%））

表-8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.4	63.7	56.5 (58.0)	1.0	▲ 11.3
消費量	37.7	38.9	39.7 (38.8)	-	2.1
うち飼料用	15.1	16.2	17.0 (13.6)	-	4.9
輸 出 量	12.6	18.4	16.5 (18.6)	-	▲ 10.3
輸 入 量	0.4	0.2	0.2 (0.2)	-	0.0
期末在庫量	1.8	8.4	8.9 (9.4)	1.0	5.9
期末在庫率	3.6%	14.7%	15.9% (16.4%)	1.8	1.2

(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.40	26.65	28.75 (…)	0.65	7.9
単収(t/ha)	2.02	2.39	1.97 (…)	▲ 0.01	▲ 17.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (27 August 2009)」

ク アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、干ばつにより収穫面積は減少するものの、単収が平年並に回復すると予測から、前年度より0.4百万トン減少（▲4.8%）し、8.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（2.0%）し、5.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、供給量の減少などから3.2百万トン減少（▲56.1%）し、2.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.3百万トン増加（78.0%）し0.7百万トンとなり、期末在庫率も9.5%（5.7ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の輸出量が0.2百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.2百万トン下方修正された。また、2009/10年度の実生産量、輸出量がそれぞれ0.5百万トン下方修正された。その結果、期末在庫量は0.2百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦については、生育期を迎えているが、8月末にラパンパ地区の降雨により干ばつの影響が緩和された。今後の生育期の天候に注視する必要がある。

【貿易情報】

2009年6月に、輸出業者が生産者から政府公示価格で買い上げることを条件として申告から365日以内に出荷、船積が可能となった。

また、農家は政府の農業政策に抗議しており、3月に大豆の輸出税引き下げを求めて穀物の売却を拒否するストライキを行った。一方、アルゼンチンの上院は、8月20日に、大統領が穀物輸出税を設定する権限を1年間延長することを承認したことから、8月末に再度ストライキを行った。

なお、9月10日には、政府から、小麦650万トンを国内向けに確保し、超過分については、輸出を自由化することと、年産800トン以下の生産者に対して、輸出税を還付する旨の発表が行われた。

ケ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実生産量は、豊作であった前年度と比較して、4～5月の乾燥により単収が低下し、収穫面積が減少すること等から、前年度より5.9百万トン減少（▲22.8%）し、20.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より食料用および飼料用需要の増加から0.7百万トン増加（5.9%）し、12.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから5.0百万トン減少（▲38.7%）し、8.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.5百万トン（▲15.9%）減少し、2.6百万トンとなり、期末在庫率は12.8%（0.2ポイント増）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の輸出量が0.1百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.1百万トン下方修正された。また、2009/10年度の実生産量が単収の上方修正等から0.5百万トン上方修正、消費量が飼料用需要の上方修正により0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量は0.1百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦は、8月中旬におおむね収穫が終了した。東部地区で生育期に乾燥した天候となったため、単収は豊作であった前年度より減少すると見込まれている。

2010/11年度の冬小麦の作付けが開始された。

【貿易情報】

2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

(世界の輸出量シェア8位 (2009/10年度 2.0%))

表-9 アルゼンチンの小麦需給 (市場年度: 12月～翌年11月)

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	18.0	8.4	8.0 (8.5)	▲ 0.5	▲ 4.8	
消費量	5.1	5.1	5.2 (4.9)	-	2.0	
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0	
輸出量	11.2	5.7	2.5 (3.5)	▲ 0.5	▲ 56.1	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	...	
期末在庫量	2.8	0.4	0.7 (0.5)	▲ 0.2	78.0	
期末在庫率	16.9%	3.8%	9.5% (5.5%)	▲ 1.9	5.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.00	4.24	2.85 (2.80)	▲ 0.15	▲ 32.8	
単収(t/ha)	3.00	1.98	2.81 (3.05)	▲ 0.02	41.9	

資料: USDA [World Agricultural Supply and Demand Estimates]、

[Grain: World Markets and Trade]、

[World Agricultural Production]

IGC [Grain Market Report (27 August 2009)]

(世界の輸出量シェア6位 (2008/09年度 6.5%))

表-10 ウクライナの小麦需給 (市場年度: 7月～翌年6月)

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	13.9	25.9	20.0 (19.0)	0.5	▲ 22.8	
消費量	12.3	11.9	12.6 (12.7)	0.5	5.9	
うち飼料用	3.0	2.9	3.3 (2.6)	0.5	13.8	
輸出量	1.2	13.0	8.0 (6.5)	-	▲ 38.7	
輸入量	0.3	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0	
期末在庫量	2.1	3.1	2.6 (1.4)	▲ 0.1	▲ 15.9	
期末在庫率	15.3%	12.6%	12.8% (7.4%)	▲ 0.7	0.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.95	7.05	6.85 (…)	-	▲ 2.8	
単収(t/ha)	2.34	3.67	2.92 (…)	0.07	▲ 20.4	

資料: USDA [World Agricultural Supply and Demand Estimates]、

[Grain: World Markets and Trade]、

[World Agricultural Production]

IGC [Grain Market Report (27 August 2009)]